

エレメント・セットと語彙から見た RDA 理解

和中 幹雄(情報組織化研究グループ)

Understanding RDA from the View of Element Sets and Vocabularies in Open Metadata Registry, by WANAKA Mikio.

1. はじめに

AACR2に代わる新たな国際目録規則である RDA (Resource Description and Access) の本格運用が 2013年4月から始まっている。わが国においては、日本図書館協会と国立国会図書館が、RDA に対応した形での「日本目録規則」(NCR) 改訂を協同で行う旨の方針を発表した¹⁾。また、RDA に基づく MARC データを受け取ることになった大学図書館を中心として、RDA についての関心が高まっている²⁾。しかし、RDA は旧来型の目録規則とは異なり、その目録規則としての条文を検討するだけでは不十分である。RDA 策定者は、記述規則やアクセスポイント付与規則の整備とともに、エレメントとそこに格納される値の確定に向けた作業を同時に行い、ウェブ世界で利用が可能となるように、Open Metadata Registry(OMR) に RDA Element Sets と RDA Vocabularies を登録してきているからである。その内容は RDA の理解を深めるとともに、OMR が将来の目録にとってきわめて重要な役割を果たすと考えられるので、目録規則との関連でその特徴を考察する³⁾。

2. RDA 刊行後の改訂の状況

RDA は2010年6月の刊行後も改訂作業が進んでいる。誤植の訂正、例示の追加や削除、用語集(Glossary) への用語の追加、参照の追加、言葉づかいの明確化などの Fast Track と呼ばれる簡易な修正とともに、年一回の RDA 開発合同委員会(JSC) の国際会議での審議結果を反映した規則内容に関わる重要な変更に対応する更新(Update) は、RDA

Toolkit を通して、2013年においては5月と7月と11月の3回行われた⁴⁾。

2013年5月のリリースでは、簡易な修正(143項目)を除いて、次の3点が実施された。

- (1) フランス語版とドイツ語版の RDA-Toolkit への搭載
- (2) RDA テストの結果報告で勧告されていた「18ヶ月以内に明瞭で、曖昧でなく平易な英語で規則を書き換える」作業(編集長 Chris Oliver) の成果を反映した条文の書き換えの完了
- (3) 用語集に44語の用語を追加、14語の用語定義を修正

2013年7月のリリースでは、2012年11月の JSC 会議の改訂審議結果を反映させ、71項目の改訂について、233の条項が修正・削除・追加された。修正・削除・追加された条項数を章別に見ると、次のとおりである。

0章(序論)：2条項

1章～4章(体現形および個別資料の属性の記録)：45条項

5章～7章(著作および表現形の属性の記録)：39条項

8章～11章(個人・家族・団体の属性の記録)：100条項

16章(場所の記録)：17条項

19章(著作と結びついた個人・家族・団体の関連)：2条項

30章(関連する個人)：1条項

付録 B-I：14条項

用語集：4語の用語を追加、6語の用語定義を修正
2013年11月のリリースでは、簡易な修正(132項目)を除いて、次の3点が実施された。

- (1) RDA : Element Set and MARC/RDA

July 2014

bibliographic and authority mappings の改訂

- (2) 更新前の条文を保存する Archive の変更
- (3) 用語集に52語の用語を追加, 18語の用語定義を修正

2013年11月4日から8日にかけて2013年 JSC 会議が開催され, 48個の改訂案(proposal) ないし討議用文書(discussion paper) が提出され議論された。それに基づく改訂は2014年4月22日に RDA Toolkit に反映された。⁵⁾

これらの改訂は, AACR2から FRBR モデルに全体構成を変更した際に生じた構成上の不整合の修正が多く, 目録法の大きな変更に関わるものはほとんど見当たらない。⁶⁾ 一方, 用語集における用語追加や用語定義の修正はかなり徹底していて, 意外に重要である。Cover, Leaf, Page, Text といった本の世界にとって基本的な用語が追加されているのは, 図書館コミュニティ以外でも利用が想定されるウェブ上の Registry への用語の搭載を考慮したものであろう。

3. OMR への登録作業

旧来型の目録規則の規定の整備と並行して進められてきた OMR への登録作業とは, RDA で定義しているデータ・エレメントを登録し URI を付与するとともに, 定型的なデータ(統制語) を付与する項目における値語彙(value vocabularies) を確定し, それらの URI を確定する作業である。

この作業は, 2007年4~5月にロンドンで開催された Data Model Meeting において発足が決定した DCMI/RDA タスクグループの活動が開始された2007年10月に始まっている。

DCMI/RDA タスクグループに与えられた役割は, 「Dublin Core のアプリケーション・プロファイルの開発に使用するために, RDA ドラフト版の構成要素を RDF 語彙として定義すること」であり, ロンドン会議で作成された作業計画は次の3点であった。⁷⁾

- (1) RDA のモデル化した実体を RDF 語彙(プロパティとクラス) として定義する。
- (2) RDFS もしくは SKOS への掲載の候補としての値語彙を識別する。
- (3) FRBR と FRAD を基礎とした RDA に対するダブリンコアのアプリケーション・プロファイルを開発する。

和中: エレメント・セットと語彙から見た RDA 理解

RDA という目録規則の全体構成が現在の FRBR モデルに即した構成となったのもこの時である。これ以降, RDA 条文テキストの整備とエレメントや語彙の登録作業が同時並行的に行われてゆくことになった。OMR への最初の登録(RDA Group1 Elements) は2008年4月であった。

4. RDA エレメント・セットの新バージョンの登場

予稿をほぼ書き終えた段階の2014年1月19日に, RDA エレメント・セットの確定バージョン(Published version of the RDA Element Sets) が OMR に公開された。⁸⁾ この新バージョンはこれまでのエレメント・セットの構成を大きく変えたもので, 旧バージョンのエレメント・セットは仮登録(new-proposed) のステータスのままで残されているが, 更新は行わず廃止予定(Deprecated) となった。⁹⁾

本報告では, 当初予定していた旧バージョンの構造的な分析は, 2013年6月の筆者による情報組織化研究グループ月例研究会報告¹⁰⁾に委ねることとし, 新バージョンの概略を旧バージョンと比較しながら紹介することにする。

5. 新旧バージョンの RDA エレメント・セットの構成

新旧バージョンの RDA エレメント・セットの構成は, 次のとおりである(丸がっこの数字はエレメント数)。

旧バージョン

The RDA (Resource Description and Access) Vocabularies¹¹⁾

- FRBR Entities for RDA (14)
- RDA Group 1 Elements (466)
- RDA Group 2 Elements (59)
- RDA Group 3 Elements (16)
- RDA Relationships for Works, Expressions, Manifestations, Items (508)
- RDA Roles (250)

新バージョン

The RDA Element Vocabularies in GitHub¹²⁾

- Agent properties (226)
- Expression properties (236)
- Item properties (54)
- Manifestation properties (213)

- Work properties (232)
- Unconstrained properties (698)
- Classes (8)

これらの新旧バージョンの構成の変化を理解するためにいくつかの新旧バージョンの比較例を文末に付表1～4として示したので参照していただきたい。

6. RDA エlement・セットの概要

6.1 FRBR Entities for RDA

RDAに関連するFRBRの実体として、旧バージョンでは14のエlementが仮登録されていた。

FRBRモデルとの相違点は次の3点であった。

- (1) 第二グループの実体を束ねるクラス・Elementとして、FRBRoo¹³⁾からAgentを導入。
- (2) Agentのサブクラスとして、FRADからFamilyを追加。
- (3) クラス・Elementとして、FRADからNameを導入。

Class element	subclass element
Work*	
Expression*	
Manifestation*	
Item*	
Agent*	Person*
	Corporate Body*
	Family*
Subject	Concept
	Place
	Event
	Object
Name	

新バージョンでは、14のエlementのうち、SubjectとNameのクラスは除かれた。その結果、上記の表のアスタリスクを付した5つのクラス(Work, Expression, Manifestation, Item Agent)と3つのサブクラス(Person, Corporate Body, Family)の8つのElementが確定した。¹⁴⁾

6.2 第1グループの実体の属性

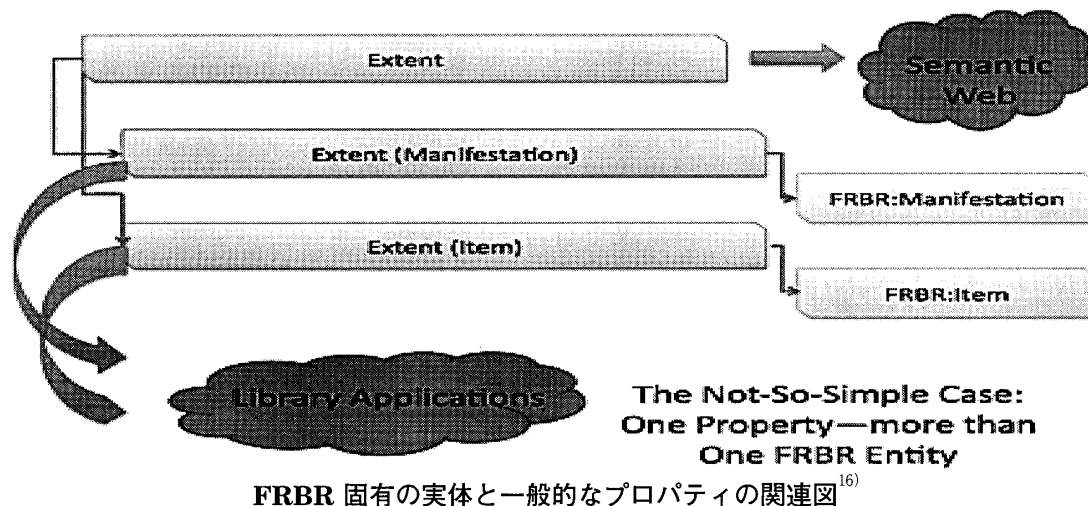
旧バージョンにおいては、FRBRの第1グループの実体の属性を示す466のエlementが、RDA Group 1 Elementsに、PropertyないしSubpropertyとして仮登録されていた。¹⁵⁾

- (1) Propertyとして仮登録されていたElement数は154で、その内訳は次のとおりであった。
RDA第2章(体現形と個別資料の識別)：65個
RDA第3章(キャリアの記述)：21個
RDA第4章(取得およびアクセス情報の提供)：6個
RDA第6章(著作および表現形の識別)：16個
RDA第7章(Contentの記述)：46個
- (2) RDA ElementをRDF PropertyないしSubpropertyとして定義するにあたっては、FRBRの特定の1つの実体に割り当てていた。
- (3) しかし、IFLAによるFRBRのRDF表現が未作成であったため、RDA ElementをFRBRの特定の1つだけの実体に限定してしまうことを避けるために(FRBRの実装のあり方を一つの可能性に限定してしまうことを避けるために)、次の措置が取られた。

プロパティ名にFRBR固有の実体の割り当てがない場合には、そのRDA Elementに対して、FRBRに限定しない一般的なプロパティとFRBR限定のプロパティの二つのプロパティを作成し、前者をPropertyとして、後者をそのSubpropertyとして登録する。前者の一般的なプロパティは、FRBRの実体と特定の関連はもたないが、セマンティック・ウェブと完全な互換性がある。以下の図は、Extent(資料の数量)を例にしたFRBR固有の実体と一般的なプロパティとの関連を示したものである。

新バージョンでは、次のような変更が加えられた(付表1参照)。

- (1) RDA Group 1 Elementsの各Elementは、Expression properties, Item properties, Manifestation properties, Work propertiesに振り分けられた。
- (2) 上述したFRBRモデルに限定されない一般的なプロパティは、Unconstrained propertiesにグループ化した。ここに位置づけられるElementは、RDAないしFRBRモデルに関わらない場合に使用できる。
- (3) Element Extent(数量)を例にとると、旧バージョンではLabel: Extent(Manifestation), Name: extentManifestationであったが、新バージョンではLabel: has extent, Name: extentとなった。「属性(Property)を示すElementのラベ



ルは名詞ではなく動詞句にすべきである」という2012年11月の JSC 会議における討議用文書¹⁷⁾で主張された案に従ったものである。

6.3 第1グループの実体間の関連

第1グループの実体間の関連をエレメント化し、RDA Relationships for Works, Expressions, Manifestations, Items として、508のエレメントを Property(28個) ないし Subproperty として登録されていたが、新バージョンでは、それぞれ、Expression properties, Item properties, Manifestation properties, Work properties に振り分けられた(付表2参照)。

6.4 第2グループの実体の属性

FRBR の第2グループの実体は、Agent というクラス・エレメントとして想定されている。この実体に関わる属性および関連は、旧バージョンでは、RDA Group 2 Elements と RDA Roles の二つのエレメント・セットに仮登録されていた。

旧バージョンにおいて、FRBR の第2グループの実体(Agent) の属性を示す59のエレメントが RDA Group 2 Elements として、Property ないし Subproperty として仮登録されていた。典拠データに含まれるエレメントが中心となるので、FRAD との対応が中心である。これらの Property は、すべて FRBR に限定されない一般的な Property であり、FRBR 限定のものは Subproperty として仮登録されていた。

新バージョンにおいては、Agent properties に

割り当てられた(付表3参照)。

6.5 関連指示子

RDA の付録 I で規定している関連指示子(relationship designator) にある250のエレメントは、旧バージョンでは、RDA Roles として、Property ないし Subproperty として仮登録されていた。

RDA は実体の属性を明確に定義づけるとともに、それら実体間の関連を明らかにすることを重視している。これらの関連は典拠データによる関連付けの他に、4種類の付録 I, J, K, L が用意され、関連をカテゴリー化した4種類の関連指示子を定義づけて詳細な関連の種別を管理しようとしている。付録 I は「情報資源と個人、家族、団体との間の関連」で、Author(著者)や Compiler(編纂者)や訳者(Translator)といった役割表示をカテゴリー化したものである。

これらの関連指示子をエレメント・セット(RDF properties)として表現するか、値語彙(value vocabularies)として表現するかは重要な選択であり、この点について、2012年11月の JSC 会議で議論され、次の勧告が承認されている。

- 現在進めているエレメント・セット(RDF properties)による表現を続ける。
- URIs に使用する名称に一貫性を持たせ、RDA のブランドを含める。
- 個人、家族、団体に一括参照するスーパー・クラスとして Agent を追加する。
- 関連指示子を RDF classes としては表現しない。新バージョンにおいては、旧バージョンの RDA

Roles は動詞句で表現し, Agent properties および第1グループの実体の属性(RDA Work properties 等)に再編された(付表4参照)。

なお, FRBR の第3グループの実体の属性を示す16の要素が RDA Group 3 Elements として, Property ないし Subproperty として(形式的に)仮登録されていたが, 新バージョンでは, 未確定事項として削除されている。

7. RDA 語彙登録の現状

RDA エlement・セットとは別に, 定型的なデータを記録する要素について, エlement の値となる統制語彙(RDA Vocabularies)の登録も行われてきた。

2014年4月10日現在, SKOS を用いた RDA 語彙(RDA Vocabularies)として70種類の語彙が登録されている。そのステータスは47種類がNew-Proposed(提案)段階であるが, 次の23種類の語彙がPublishedとなっている。

2章 体現形および個別資料の識別

RDA Mode of issuance(2.13)

RDA Frequency(2.14)

3章 キャリアの記述

RDA Media type(3.2)

RDA Carrier Type(3.3)

RDA Production Method for Tactile Resource
(3.9.3)

RDA Layout of Cartographic Images(3.11.2)

RDA Book Format(3.12)

RDA Font Size(3.13)

RDA Polarity(3.14)

RDA Reduction Ratio(3.15)

RDA Groove Pitch of an Analog Cylinder
(3.16.5)

RDA Groove Width of an Analog Disc(3.16.5)

6章 著作および表現形の識別

RDA Content Type(6.9)

RDA Conventional Collective Title(6章)

RDA Other Distinguishing Characteristic of
the Expression of a Legal work(6.21)

7章 Content の記述

RDA Form of Musical Notation(7.13.3)

RDA Form of Notated Movement(7.13.5)

RDA Form of Tactile Notation(7.13.4)

RDA Sound Content(7.18)

RDA Aspect Ratio(7.19)

RDA Format of Notated Music(7.20)

RDA Scale(7.25)

9章 個人の識別

RDA Gender(9.7)

メディア種別(RDA Media Type)を例にとると, この Vocabulary には audio, computer, microform, microscopic, projected, stereographic, unmediated, video という8つの統制語(Preferred Label)が登録されていて, Published となっている。さらに, 対応するドイツ語の統制語(Preferred Label)として auditive Medien も登録されているが, それはまだ New-proposed のステータスとなっている。

8. 今後の目録作成のイメージ

以上のように, RDA エlement・セットの確定バージョンが公開されることにより, 蔵書検索ツールから情報資源発見ツールを目指す RDA に基づく書誌コントロールは新たな段階に入ったように思われる。

バーバラ・ティレットは, RDA が目指す方向性を次のように述べている。¹⁸⁾

図書館はウェブ上での存在感を得るために大きな進歩を遂げてきたが, 古いカード目録の電子版を提供しているにすぎない図書館も多い。所蔵資料を列挙して直線的に表示するという目録のアプローチは, 記述された資源のデジタル版へのリンクを含むことはあっても, 一般的には, 他の関連資源やそれを超えるものへの機械処理可能な関連付けについては除外している。列挙を基本とした目録を構築するというアプローチは, コンピュータ・システムが理解できるような識別特性と, 個人, 家族, 団体及び他の資源との関連の明示による資源記述へと拡張する必要がある。そうすることで, 利用者は必要とする情報をより速く得るためにリンクされた資源の代替物の中を検索することができる。それはまた, 目録作業をより容易にするためのより良いシステムへ至ることにもなる。

「列挙を基本とした目録」から「コンピュータ・システムが理解できるような識別特性と, 個人, 家族, 団体及び他の資源との関連の明示による資源記

July 2014

和中：エレメント・セットと語彙から見た RDA 理解

述へと拡張」への移行を、夏目漱石著『吾輩は猫である』の英訳書を例に図示したイメージとして述べれば、次のようになるであろう。

(1) 現在の目録(Library of Congress Online Catalog)

書誌レコードを単位として作成・管理される書誌データベース(OPAC)で提供されている。

LC control no.: 2002100535

LCCN permalink: <http://lcn.loc.gov/2002100535>

Type of material: Book (Print, Microform, Electronic, etc.)

Personal name: Natsume, Sōseki, 1867-1916.

Uniform title: Wagahai wa neko de aru. English

Main title: I am a cat / Sōseki Natsume; translated by Aiko Ito & Graeme Wilson.

Published/Created: Boston, Mass.: Tuttle Pub., c2002.

Description: xvi, 638p.; 21cm.

ISBN: 080483265X

Links: Contributor biographical information

Publisher description

CALL NUMBER: PL812. A8W3132002

Copy1

-- Request in: Jefferson or Adams Building Reading Rooms

-- Status: Not Charged

(2) FRBR による書誌情報の構造化

上記の書誌レコードで記録されている個別資料に関わる実体は、FRBR モデルで次のように構造化されて捉えられるようになった。

著作：夏目漱石著 吾輩は猫である

表現形 1：吾輩は猫である

体現形 1：吾輩ハ猫デアル。 -- 大倉書店, 明38-40. 3冊(上290, 中238, 下218, 20p)

個別資料 1：国立国会図書館所蔵の3冊

体現形 2：吾輩は猫である。 -- 岩波書店, 1930. 466p

体現形 3：吾輩は猫である (新字新仮名, 青空文庫作品 ID: 789)

体現形 4：吾輩ハ猫デアル (旧字旧仮名, 青空文庫作品 ID: 790)

表現形 2：我是猫(程伯軒, 羅茜訳)

体現形 1：我是猫. 鳳文書院, 1936. 225p

表現形 3：I am a cat(translated by Aiko Ito & Graeme Wilson)

体現形 1：I am a cat / Sōseki Natsume; translated by Aiko Ito & Graeme Wilson.

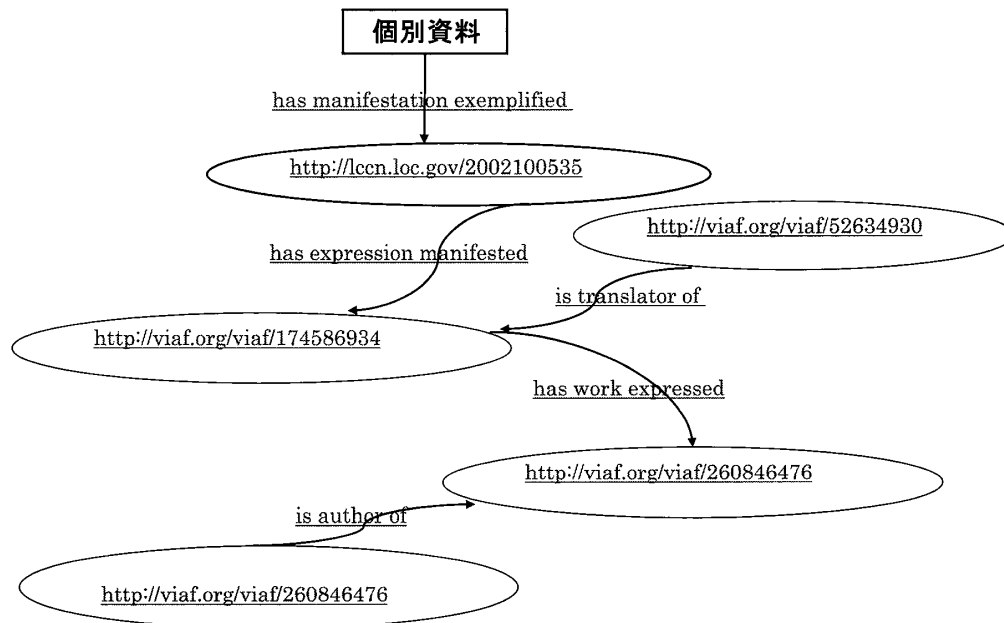
Tuttle Pub., c2002. --xvi, 638p.

(3) Registry と典拠ファイルを用いた目録データ(Linked Data) のイメージ

FRBR モデルで構造化された実体は、ウェブ上で利用できる URI をもつ RDF で記録され、個別資料：LC 所蔵資料(請求記号：PL812. A 8 W3132002) は、次のような実体識別子と関連付けられる。

- ・体現形：I am a cat(LCCN Permalink:<http://lcn.loc.gov/2002100535>)
- ・表現形：I am a cat(VIAF Permalink:<http://viaf.org/viaf/174586934>)
- ・著作：吾輩は猫である(VIAF Permalink:<http://viaf.org/viaf/260846476>)
- ・個人：夏目漱石(VIAF Permalink:<http://viaf.org/viaf/56614190>)
 - ・著者(<http://rdaregistry.info/Elements/a/P50195>(RDF))
- ・個人：伊藤あい子(VIAF Permalink:<http://viaf.org/viaf/52634930>)
 - ・翻訳者(<http://rdaregistry.info/Elements/a/P50145>(RDF))

以下の図は、FRBRに基づく実体間の関連を、手許にある個別資料の側から見たリンク付けのイメージとして示したものである。個別資料は図書館所蔵資料である場合も、その他の個人・団体が所蔵する資料である場合も想定され、責任ある書誌および典拠コントロール機関が設定する永久識別子とリンク付けされている。



日本目録規則(NCR)の改訂をRDA対応とする限りは、旧来型の「目録規則」の条文検討だけでは不十分である。OMRに登録されたエレメント・セットと値語彙をも含めた検討が不可欠であると思われる。

また、NCRが開発してきた「書誌単位」や「物理単位」などの概念とFRBRの実体との関連付けも必要である。「単行書誌単位」も「集合書誌単位」も「構成書誌単位」も分割記入の記録である「物理単位」もすべて表現形の属性の集合であり、付表2「第1グループの実体間の関連」で示したhas whole-part manifestation relationship with という相互に関連を持っている。分割記入された書誌レコードの識別子と一括記入の書誌レコードの識別子は、この関連を通してリンクされる。

国立国会図書館サーチでは、検索結果を表示する際に、関連する書誌レコードを機械処理によってグ

ループ化して表示する「グループ表示」という手法が用いられているが、機械処理によりグループ化される書誌レコードは、筆者が見る限り、次の3つのカテゴリーに分けられる。

- (1) 同一タイトルをもつ表現形の著作のグループ化
- (2) 分割記入されたセットものの各巻(表現形)のグループ化
- (3) 全国総合目録における機械的書誌未同定の書誌レコードのグループ化

(1)と(2)は国立国会図書館作成の書誌レコードであるが、これらの書誌レコードは混在しており、機械処理の限界を示している。過去のデータも含めて、コンピュータによる識別特性と実体間の関連を明示する目録を実現するためには、責任ある書誌および典拠コントロール機関が作成したこれらの書誌レコードは、目視によるなんらかの処理が必要となるであろう。

付表1 第1グループの実体の属性例
Extent(資料の数量)に関わる属性(エレメント)
<旧バージョン>

Schema	Property	Type
RDA Group 1 Elements	Extent of three-dimensional form (Item)	subproperty
	Extent of still image (Item)	subproperty
	Extent of notated music (Item)	subproperty

July 2014

和 中：エレメント・セットと語彙から見た RDA 理解

RDA Group 1 Elements	Extent of cartographic resource (Item)	subproperty
	Note on extent of item	subproperty
	Extent of text (Item)	subproperty
	Extent of cartographic resource (Manifestation)	subproperty
	Extent of notated music (Manifestation)	subproperty
	Extent (Manifestation)	subproperty
	Extent (Item)	subproperty
	Note on extent of manifestation	subproperty
	Extent of three-dimensional form (Manifestation)	subproperty
	Extent of text (Manifestation)	subproperty
	Extent of still image (Manifestation)	subproperty
	Extent	property
	Extent of three-dimensional form	subproperty
	Extent of text	subproperty
	Extent of still image	subproperty

〈新バージョン〉

Schema	Property	Type
RDA Item properties	has note on extent of item	subproperty
RDA Manifestation properties	has extent of cartographic resource	subproperty
	has extent of notated music	subproperty
	has extent of still image	subproperty
	has extent of three-dimensional form	subproperty
	has extent of text	subproperty
	has extent	subproperty
	has note on extent of manifestation	subproperty
RDA Unconstrained properties	has extent	subproperty
	has note on extent of resource	subproperty

(注：個別資料(Item)の数量は、「個別資料の数量に関する注記」を除いて、新バージョンでは除去)

付表2 第1グループの実体間の関連例
Whole-part relationship(全体・部分の関連)

〈旧バージョン〉

Schema	Property	Type
RDA Relationships for Works, Expressions, Manifestations, Items	Whole-part relationship (Item)	subproperty
	Whole-part relationship (Manifestation)	subproperty
	Whole-part relationship (Expression)	subproperty
	Whole-part relationship (Work)	subproperty
	Whole-part relationship	property

〈新バージョン〉

Schema	Property	Type
RDA Item properties	has whole-part item relationship with	subproperty
RDA Manifestation properties	has whole-part manifestation relationship with	subproperty

RDA Expression properties	has whole-part expression relationship with	subproperty
RDA Work properties	has whole-part work relationship with	subproperty
RDA Unconstrained properties	has whole-part resource relationship with	property

付表3 第2グループの実体の属性例

例1 Name of the person (個人名)

〈旧バージョン〉

Schema	Property	Type
RDA Group 2 Elements	Name of the person	property

〈新バージョン〉

Schema	Property	Type
RDA Agent properties	has name of the person	subproperty

例2 Date of birth (誕生日付)

〈旧バージョン〉

Schema	Property	Type
RDA Group 2 Elements	Date of birth	subproperty

〈新バージョン〉

Schema	Property	Type
RDA Agent properties	has date of birth	subproperty
RDA Unconstrained properties	has date of birth	subproperty

付表4 関連指示子例

Author (著者)

〈旧バージョン〉

Schema	Property	Type
RDA Roles	Author	property
RDA Roles	Author (Work)	subproperty

〈新バージョン〉

Schema	Property	Type
RDA Agent properties	is author of	subproperty
RDA Work properties	has author	subproperty
RDA Unconstrained properties	is author of	subproperty
RDA Unconstrained properties	has author	subproperty

本研究は、科研費基盤研究(C) 課題番号25330391の助成を受けた成果である。

注

- 1) 「NDL と JLA の連携による新しい『日本目録規則』の策定について」『カレントアウェアネス-E』No.248, 2013.11.07 <<http://current.ndl.go.jp/e1496>>. [引用日: 2014-04-20]

- 2) 大学図書館支援機構による大学図書館員向けの RDA 講習会が全国で数多く開催されている。

<<http://www.iaal.jp/rda/index.shtml>>. [引用日: 2014-04-20]

- 3) RDA についての同種の検討は、谷口祥一が、「RDA をモデルと記述に分けて捉える: RDA 理解のための枠組み」『図書館界』(Vol.64, No.6, 2013.3)においてすでに行っている。「RDA に直接対応するモデル(RDA から導出されたモデル)と、「記述」(正確には、記述およびアクセ

July 2014

ポイントの記述に直かわる規則群)とを分離して明示することが、RDAのより容易かつ深い理解に通じるものと考え」と述べ、前者の「RDAに直接対応するモデル(RDAから導出されたモデル)」を検討し、RDAはFRBR/FRADの概念モデルを基礎としているが、RDAには独自のモデルがあることを明らかにしている。

4) RDA Toolkit-2013 Release Announcements

<<http://rdatoolkit.org/2013releases>>. [引用日:2014-04-20]

5) RDA Toolkit - What's New

<<http://www.rdatoolkit.org/>>. [引用日:2014-04-20]

6) 2013年11月4日～8日開催のJSC会議で決定した改訂内容の概要については、次の文献を参照。和中幹雄「『決定をRDA刊行後に持ち越した課題』から見るRDAの方向性(3) RDA本格導入直前の改訂作業について(その2)」『資料組織化研究-e』64, 2013.4.p.14-27. <<http://kiyo.info.gsucc.osaka-cu.ac.jp/TS/article/view/642>>. [引用日:2014-04-20]7) DCMI/RDA Task Group Repurposing Proposal <http://wiki.dublincore.org/index.php/DCMI/RDA_Task_Group_Repurposing_Proposal>. [引用日:2014-04-20]

8) RDA Element Vocabularies in GitHub

<<http://www.rdaregistry.info/>>. [引用日:2014-04-20]

9) The RDA (Resource Description and Access) Vocabularies <<http://rdvocab.info/>>. [引用日:2014-04-20]

10) 「RDA エレメント・セットと RDA 語彙をめぐって情報組織化研究グループ月例研究会報告(2013.6)」

<<http://josoken.digick.jp/meeting/2013/201306.html>>. [引用日:2014-04-20]

11) 前掲9).

12) 前掲8).

13) International Working Group on FRBR and CIDOC CRM Harmonisation. "FRBR: Object-oriented Definition and Mapping to FRBR ER (version1.0)". CIDOC CRM.

<http://cidoc.ics.forth.gr/docs/frbr_oo/frbr_docs/FRBRoo_V1.0_2009_june_.pdf>. [引用日:2014-04-20]

14) Element Sets : Show detail for RDA Classes <http://metadataregistry.org/schemaprop/list/schema_id/83.html>. [引用日:2014-04-10]15) Element Sets : Show detail for RDA Group 1 Elements <<http://metadataregistry.org/schema/show/id/1.html>>. [引用日:2014-04-20]16) Diane Hillmann, Karen Coyle, Jon Phipps, Gordon Dunsire "Resource Description and Access (RDA): RDA Vocabularies: Process, Outcome, Use". *D-Lib Magazine*.16(1/2), January/February, 2010. <<http://dlib.org/dlib/january10/hillmann/01hillmann.html>>. [引用日:2014-04-20]

情報組織化研究グループ月例研究会案内

17) RDF representation of RDA relationship designators: discussion paper (6JSC/CILIP rep/2) <<http://www.rda-jsc.org/docs/6JSC-CILIP-rep-2.pdf>>. [引用日:2014-04-20]18) バーバラ・テイレット「『RDA』:図書館をセマンティック・ウェブに適したものに」『カレントアウェアネス』No.311, 2012.3.20 <<http://current.ndl.go.jp/ca1767>>. [引用日:2014-04-20]

◆情報組織化研究グループ月例研究会案内◆

〈2014年7月月例研究会〉

日 時:2014年7月26日(土) 14:00~17:00

※開始時刻を通常よりも30分繰り上げています。ご注意ください。

会 場:近畿大学会館 第5会議室(4階)

大阪市中央区日本橋1-8-17

大阪市営地下鉄千日前線・堺筋線,または

近鉄線「日本橋」駅6番出口から徒歩3分
テーマ:アーカイブズ記述の組織化に関する最近の動向

発表者:寺澤正直氏(国立公文書館)

坂口貴弘氏(京都大学大学文書館)

五島敏芳氏(京都大学総合博物館)

概 要:アーカイブズの資料は、もともと第三者の利用を想定しておらず、図書と同様に検索するためには、図書の場合とは異なる配慮が必要である。アーカイブズ記述は、「多段階記述的な資料把握」と「資料の作成母体重視」を基に整備されている。この組織化の様相について史的・体系的に検討を試みる。第1に図書館の組織化と比較しながら、アーカイブズ記述の国際標準について概説する。第2に2013年改訂の米国アーカイブズ記述規則 DACS について報告する。最後に記述情報の符号化標準類(図書館の世界で言う MARC の標準類にほぼ相当する)を紹介し最新の EAD3にもふれる。

共 催:書誌コントロール研究会(科学研究費基盤研究(C) 課題番号25330391 研究代表者:和中幹雄)

後 援:記録管理学会,日本アーカイブズ学会

※事前申込みは不要です。当日気軽にご参加下さい。